

原稿募集要項

「フラッシュエンポスト」第40号の原稿を下記の要領で募集します。投稿される際は、それぞれのアドレスへメールに添付してお送りください。後ほど担当者より確認のご連絡を差し上げます。数日待っても返信がない場合は、改めてご連絡ください。

1. 論文・研究ノート

- 分量：論文 400字詰め20枚（8000字）程度
研究ノート 400字詰め10枚（4000字）程度
 - 申込締切：9月20日
 - 原稿締切：1月末日
 - 著者校正：2回
 - 連絡先 <ronbun-hensyu@germanistinnen.sakura.ne.jp>
- 【執筆に際してのお願い】
- 写真、図などは、挿入箇所を本文中に明記してください。
 - 人名は、ドイツ語の場合、初出時にまずカタカナとアルファベットを併記してください。その後はカタカナでもアルファベットでも、どちらでもかまいません。よく知られた人名の扱いに関しては、執筆者の方にお任せします。本誌は、読者をゲルマニスティネンに限ってはおりません。一般に読みやすい方がよいと考えていますので、その辺の事情をご理解下さい。
 - 注、参考文献は、本文の後に、一括して付けてください。
 - 原稿に図表を添付する際は、データサイズが大きくなりすぎないように注意してください。サイズについてはとくに規定は設けませんが、場合によりサイズの変更をお願いすることがありますので、対応できるように複数パターンご用意ください。
 - 多数の図表の掲載を希望する場合、総ページ数の関係上、既定の文字数を減らす場合があります。早めに編集部へ申し出てください。
 - Windows の場合は、「Word」あるいは「一太郎」のソフトを使用してください。Mac の場合はテキストファイルでも結構です。
 - 投稿原稿の採否は、編集委員会の審査に基づいて決定します。

2. 書評

- 分量：1000字程度（最大1100文字まで）
- 申込締切：8月末日（評者の方は、対象となる書籍のタイトルと著者名をお知らせください。著者の方は、タイトルと出版社名をお知らせください。）
- 原稿締切：12月末日
- 著者校正：1回
- 備考：書評対象となる御本の著者の方には、評者の方へお送りするため、ゲルマニスティネンの会への献本を1冊お願いしております。送り先等については、申し込み後の確認メールにてご案内いたします。
- 連絡先 <syohyo-hensyu@germanistinnen.sakura.ne.jp>

3. Hallo!

- 分量：1600字
- 申し込み締切：9月末日（タイトルを下記までお送りください。）
- 原稿締切：12月末日
- 著者校正：なし
- 備考：原稿の最後に、①氏名の読み、②居住地（市、区など）を記すこと
- 連絡先 <hallo-hensyu@germanistinnen.sakura.ne.jp>

4. 会員の仕事

- ・「著（編）書」「論文」「翻訳」「書評」「教科書・参考書」「口頭発表・ポスター発表等」「研究ノート・その他」「受賞」の別を記すこと。
- ・1月から12月の業績について、氏名、タイトル、掲載誌、巻号、発行元、発行年の順に記載すること。
- ・締切：12月末日
- ・連絡先 <shigoto-hensyu@germanistinnen.sakura.ne.jp>

Flaschenpost 執筆要領

- ・句読点は「、」と「。」をもちいる。
- ・日付にかかわる数字や、数えられるものについては原則半角英数で表記する。
例：30年間、2008年11月9日、3パターン、4回目、5歳児、第6章
漢字を用いる場合：「一部分」などの慣用表現
「第二次世界大戦」「三十年戦争」など固有名詞化した用法
「一回」、「一度」、「二秒」など、1と2は漢字で表記することができる（執筆者単位で統一のこと）。
人を数える場合：「一人、二人」と漢字で表記する。「ひとり、ふたり、三人（三人以上漢数字）」とひらがなを混ぜることができるが、いずれかに統一する。
- ・副詞はできるかぎりひらがなで表記する。
例：出来る限り→できるかぎり、全く→まったく
- ・カッコは全角カッコをもちいる。
例：□1981年、フランス□
- ・ドイツ語の引用符は「„“」をもちいる。
- ・ダッシュの長さは全角1角分。ただし年号のみで表記する場合は半角とする。
例1：グリムのメルヒェンと明治期教育学—童話・児童文学の原点
例2：(22—24ページ)、(1854年生まれ—1910年没)
年号のみの表記は半角ダッシュ：(1836-1916)
- ・人名でVornameを省略する場合は「・」とする。 E・T・A・ホフマン
- ・氏名にもちいられる「=」は半角とする。 パウラ・モーダーゾーン=ベッカー
- ・「…」は3点で全角1文字にいれる。
- ・和文中の「?」「!」は全角とし、文末でその後文が続く場合は半角のスペースを置く。
例1：どうしてなのでしょう？☐それは今でも謎です。
例2：たった二人で！☐苦勞がしのべれます。
- ・略語は避ける。
例：ティネン→ゲルマニスティネン
- ・原稿に図表を添付する際は、データサイズが大きくなりすぎないようにする。サイズについてはとくに規定は設けないが、場合によりサイズの変更を求めることがあるので、対応できるように複数パターン用意するのがのぞましい。
- ・また、多数の図表の掲載を希望する場合、総ページ数の関係上、既定の文字数を減らす場合がある。早めに編集部へ申し出ること。
- ・論文の注番号は半角の算用数字を用いる。注の本文は、注番号のあとに半角スペースをおいてからはじめる。